

医科学 見聞録

日本が開発した世界初のベータ2作用薬 ツロブテロールとは？

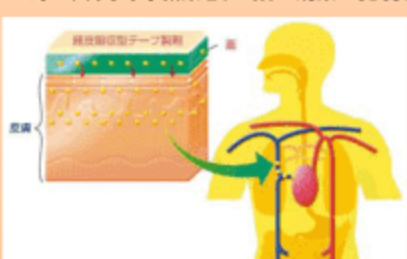
一般社団法人山口県薬剤師会
副会長 西村正広

平成26年度のドーピング防止規律パネル決定報告6例のうち、禁止物質である「ツロブテロール」が検出された例が3例報告され、ドーピング規則違反となった選手には、競技成績の失効及び資格停止2～3か月の制裁が決定されました。

ツロブテロールは、WADA2014 禁止表国際基準における「S3. ベータ2作用薬」において、常に禁止される物質に分類されています。ベータ2作用薬は、主に気管支に存在するアドレナリンベータ2受容体を刺激することにより気管支を広げ、呼吸を楽にする医薬品で気管支喘息などの治療薬です。しかし、ベータ2作用薬は交感神経興奮作用、蛋白同化作用による筋組織量の増加を期待して使用されるため、常時使用禁止とされています。ただし、吸入サルブタモール（サルタノールインヘラー®など）、吸入ホルモテロール（オーキシスタービュヘイラー®など）、および吸入サルメテロール（セレベント®など）は、適正使用の範囲内であれば使用が認められ、TUE申請の必要もありません。

ツロブテロールが検出された3例のうち2例は「ホクナリン®テープ」の使用によるものでした。これの使用には、事前にTUE申請が必要です。

「ホクナリン®テープ」は、日本が開発した世界初の「ぜんそく治療用テープ製剤」です。粘着剤の中に気管支拡張効果のあるツロブテロールが入っているテープであり、体に貼ると薬が皮膚から吸収され、毛細血管に入り、血液に乗って全身に回ります。結果として薬の効果が発現し、気管支が拡張されて呼吸を楽にしてくれます。



経口薬ではないことから、大丈夫と判断しないようにしましょう。喘息の薬には禁止物質が多く、注意が必要です。喘息の方は必ずアンチ・ドーピングに関して詳しいスポーツドクターやスポーツファーマシストに相談してください。

